

植物多様性センターの「ミドリヒメワラビの黄葉」

学習園には20種ほどのシダが自生していますが、今、ミドリヒメワラビの黄葉が見ごろです。黄葉とは言っても、イチヨウのような鮮やかな黄色とまではならず、渋いレモン色や黄土色です。霜が降りるころには、褐変し枯れてしましますが、それと同時に株元の芽生えを寒さと乾燥から守るように、根元から地面に倒れます。多年生植物なので、春には親植物もまた芽を出しますが、同時に子ども世代の準備もしています。



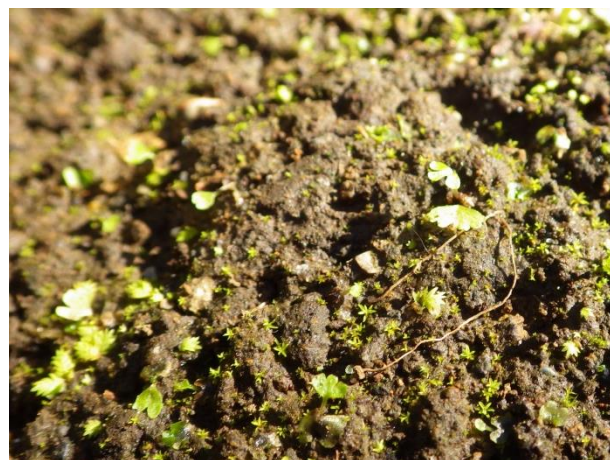
初夏：展葉直後の若い葉は名前のとおり緑色で美しい



晩秋：黄土色から次第に褐色に変わり枯れてゆく



葉裏のソーラス：形は丸く成熟するとともに胞子が散布される



前葉体と幼植物：株元の地面には、小さな芽生えが育っている